

オーストラリア株式ファンド

運用報告書（全体版）

第47期（決算日 2020年5月15日）第48期（決算日 2020年8月17日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「オーストラリア株式ファンド」は、2020年8月17日に第48期の決算を行ないましたので、第47期と第48期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | | |
|--------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 | |
| 信託期間 | 2008年9月26日から2023年8月15日までです。 | |
| 運用方針 | 主として「オーストラリア株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。 | |
| 主要運用対象 | オーストラリア株式ファンド | 「オーストラリア株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。 |
| | オーストラリア株式マザーファンド | オーストラリア企業が発行する金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 |
| 組入制限 | オーストラリア株式ファンド | 株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 |
| | オーストラリア株式マザーファンド | 株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 |
| 分配方針 | 第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 | |

<441031>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近10期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | | S&P/ASX 200指数 (円換算ベース) | | 株式組入比率 | 投資信託 組入比率 | 純資産額 |
|------------------|--------|----------|----------------|---------------------------|-----------|--------|--------------|-------|
| | (分配) | 税金 分配 | み 期騰落 中率 | (ベンチマーク) | 期騰落 中率 | | | |
| | 円 | 円 | % | | % | % | % | 百万円 |
| 39期(2018年5月15日) | 10,423 | 360 | 3.0 | 115.74 | 2.6 | 87.7 | 5.6 | 2,250 |
| 40期(2018年8月15日) | 9,926 | 360 | △ 1.3 | 115.75 | 0.0 | 94.1 | 2.0 | 2,406 |
| 41期(2018年11月15日) | 8,977 | 360 | △ 5.9 | 108.17 | △ 6.5 | 89.1 | 6.2 | 2,586 |
| 42期(2019年2月15日) | 8,543 | 360 | △ 0.8 | 108.33 | 0.1 | 88.8 | 4.0 | 2,598 |
| 43期(2019年5月15日) | 8,139 | 360 | △ 0.5 | 108.13 | △ 0.2 | 91.1 | 3.7 | 2,530 |
| 44期(2019年8月15日) | 7,602 | 360 | △ 2.2 | 107.85 | △ 0.3 | 90.0 | 5.6 | 2,597 |
| 45期(2019年11月15日) | 8,012 | 360 | 10.1 | 113.45 | 5.2 | 88.3 | 6.8 | 2,825 |
| 46期(2020年2月17日) | 7,629 | 360 | △ 0.3 | 119.96 | 5.7 | 88.9 | 6.7 | 2,907 |
| 47期(2020年5月15日) | 4,924 | 360 | △30.7 | 84.45 | △29.6 | 87.9 | 7.8 | 2,125 |
| 48期(2020年8月17日) | 5,934 | 360 | 27.8 | 107.04 | 26.8 | 85.6 | 8.6 | 2,761 |

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) S&P/ASX 200指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス (S&PDJI) が発表している、オーストラリア証券取引所上場の時価総額上位200銘柄で構成される時価総額加重平均指数です。同指数の(円換算ベース)とは、公表指数を基に円換算したものです。なお、設定足を100として2020年8月17日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

| 決算期 | 年 月 日 | 基準価額 | | S&P/ASX (円換算 ベンチマーク) | 200指数 ベース) 騰落率 | 株式 組入比率 | 投資信託 組入比率 |
|------|--------------------|------------|--------|----------------------------|----------------------|------------|--------------|
| | | 騰落率 | 騰落率 | | | | |
| 第47期 | (期首) 2020年2月17日 | 円 7,629 | % - | 119.96 | % - | % 88.9 | % 6.7 |
| | 2月末 | 6,982 | △ 8.5 | 109.29 | △ 8.9 | 87.4 | 5.5 |
| | 3月末 | 4,853 | △36.4 | 78.14 | △34.9 | 89.2 | 4.1 |
| | 4月末 | 5,412 | △29.1 | 85.95 | △28.3 | 88.5 | 5.3 |
| | (期末) 2020年5月15日 | 5,284 | △30.7 | 84.45 | △29.6 | 87.9 | 7.8 |
| 第48期 | (期首) 2020年5月15日 | 4,924 | - | 84.45 | - | 87.9 | 7.8 |
| | 5月末 | 5,758 | 16.9 | 95.26 | 12.8 | 86.4 | 7.5 |
| | 6月末 | 5,838 | 18.6 | 98.03 | 16.1 | 86.7 | 6.5 |
| | 7月末 | 6,133 | 24.6 | 104.07 | 23.2 | 90.3 | 6.1 |
| | (期末) 2020年8月17日 | 6,294 | 27.8 | 107.04 | 26.8 | 85.6 | 8.6 |

(注) 期末の基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

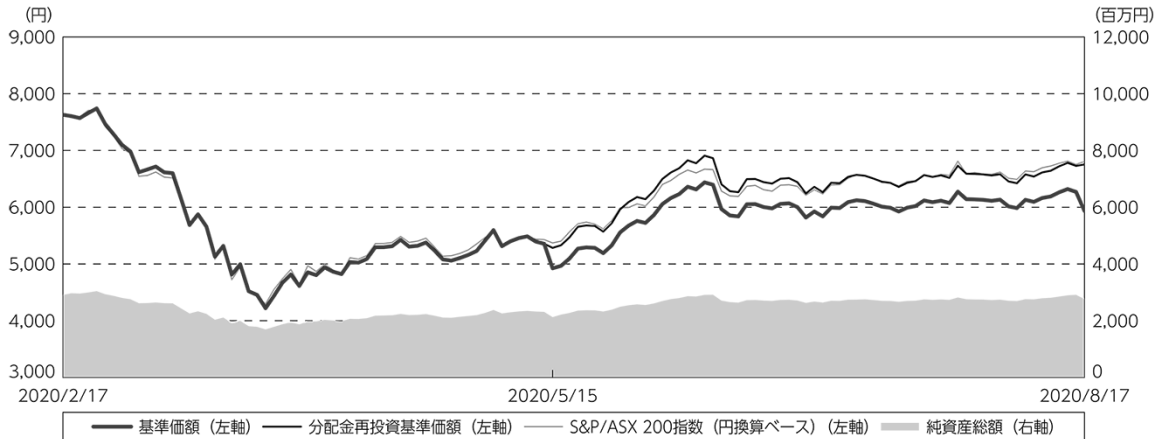
(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2020年2月18日～2020年8月17日)

作成期間中の基準価額等の推移



第47期首： 7,629円

第48期末： 5,934円 (既払分配金(税込み) : 720円)

騰落率：△ 11.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびS&P/ASX 200指数(円換算ベース)は、作成期首(2020年2月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) S&P/ASX 200指数(円換算ベース)は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、オーストラリアの株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行っております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルス流行後の経済活動の再開期待やワクチン開発期待の高まりなどを背景にリスク回避姿勢が緩和され、世界の株価が回復したこと。
- ・鉄鉱石や金価格など、資源価格が上昇したこと。
- ・世界の主要中央銀行が金融緩和を進めるなかで、オーストラリア準備銀行(RBA)も2度にわたる政策金利の引き下げを実施したこと。

<値下がり要因>

- ・世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済への悪影響が懸念されたこと。
- ・オーストラリア政府によるシャットダウン（商業・娯楽施設などの閉鎖）の発表などで経済減速や業績悪化に対する懸念が高まったこと。
- ・新型コロナウイルスの影響による需要低迷を受けて、原油価格などの資源価格が下落したこと。

投資環境

（オーストラリア株式市況）

オーストラリア株式市場は、期間の初めと比べて下落しました。

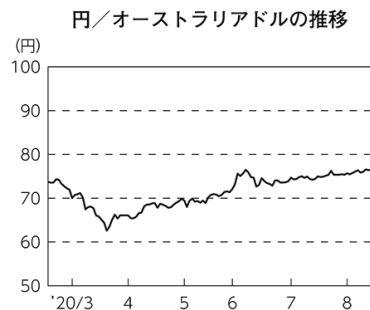
期間の初めは、新型コロナウイルスの感染拡大懸念などからリスクセンチメントが急速に悪化しました。世界経済の減速懸念を受けて主要中央銀行が金融緩和を進めるなか、RBAも政策金利を引き下げたものの、政府によるシャットダウンの発表などが悪材料となり、下値を切り下げました。2020年4月に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化や国内外の経済活動の再開期待などを受けてリスクセンチメントが好転し、株式市場は徐々に回復基調となりました。各州で封鎖緩和が始まったことや、原油・鉄鉱石価格の上昇、新型コロナウイルスのワクチン開発期待の高まりなどをプラス材料に一時リスクオンの展開となりましたが、その後は、国内外で新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒材料となり、一進一退となりました。

為替市場では、2020年3月にかけては新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避姿勢の高進に加えて、オーストラリアの緊急利下げや量的緩和の実施に伴ない円高／オーストラリアドル安が進みましたが、その後は経済活動の再開期待や世界的な株価の戻りなどを背景にリスク回避姿勢の緩和が進んで円安／オーストラリアドル高となり、円ベース・リターンは押し上げられる結果となりました。

セクター別では、素材や情報技術が市場を牽引した一方で、エネルギー、不動産、金融などが市場平均から大きく出遅れました。

（為替市況）

期間中における円／オーストラリアドル相場は、右記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、「オーストラリア株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(オーストラリア株式マザーファンド)

期間中、ポートフォリオでは主に以下の投資行動を行ないました。

割安のディフェンシブ（景気動向に左右されにくい）銘柄でありファンドへの組み入れの好機と判断したインフラ建設/トランスアーバン・グループ（資本財・サービス）、ディフェンシブ性があり配当利回りが高く魅力的なバリュー銘柄である包装製品メーカー/オーロラ（素材）、安定的な利益率や配当方針に定評のある住宅関連用品/GWAグループ（資本財・サービス）などについて新規ポジションを構築しました。

一方、一般炭銘柄から投資家が離れつつあることにより株価の下落懸念が生じた石炭生産会社/ホワイトハイブーン・コール（エネルギー）を売却したほか、自社株買いのキャンセルや配当の延期を発表した航空運輸/カンタス航空（資本財・サービス）について新型コロナウイルス危機後の株価の上昇局面を捉えて売却し、また、当ファンドにおける順位付けが下がった総合量販店/ハーベイ・ノーマン（一般消費財・サービス）などについても売却を進めました。

当ファンドのベンチマークとの差異

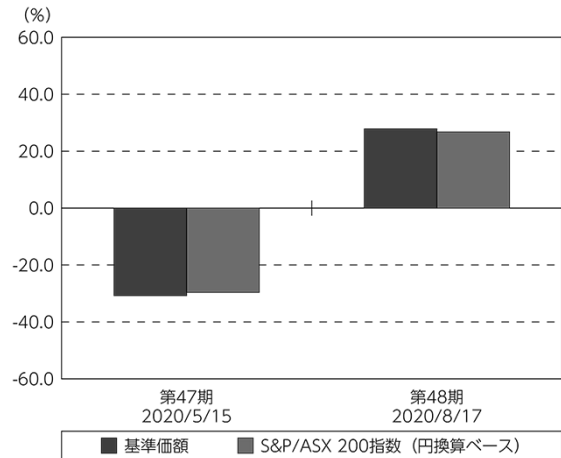
期間中における基準価額は、11.5%（分配金再投資ベース）の値下がりとなり、ベンチマークである「S&P/ASX 200指数（円換算ベース）」の下落率10.8%を概ね0.7%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

<プラス要因>

- ・商業銀行大手/オーストラリア・コモンウェルス銀行（金融）：新型コロナウイルスの影響で不良債権が増加するとの懸念や、低金利の長期化観測による純金利マージンの低下懸念などから株価が下落し、アンダーウェイトがプラスに寄与しました。
- ・バイオ医薬・血漿剤大手/シー・エス・エル（ヘルスケア）：ディフェンシブ株が敬遠されたことに加え、米国での血漿採取量不足への懸念により、血漿供与の減少が免疫グロブリンの有効利用を抑制して短期的な成長鈍化につながることから、非保有がプラスに寄与しました。
- ・非鉄金属/OZミネラルズ（素材）：銅・金価格の上昇や、主要な成長プロジェクトに関連した好材料に支えられたことが好感され、オーバーウェイトがプラスに寄与しました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) S&P/ASX 200指数（円換算ベース）は当ファンドのベンチマークです。

<マイナス要因>

- ・金融サービス/バージーン・マネーUK（金融）：本拠である英国の銀行が新型コロナウイルスによる打撃を受けたことが嫌気され、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・商業銀行/サンコープ・グループ（金融）：新型コロナウイルスにより銀行セクター全体のセンチメントが悪化するなかで主要部門である銀行部門が苦戦し、不良債権増加に対する懸念の高まりが悪材料となり、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・エンジニアリングサービス/ダウンナーEDI（資本財・サービス）：低調な建設受注や鉱山プロジェクトの着工遅延などを背景に2020年2月に業績見通しを下方修正したことや、新型コロナウイルスによる市場変動が大きく鉱業事業の売却を停止したことなどで株価が下落し、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

| 項 目 | 第47期 | 第48期 |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 2020年2月18日～ 2020年5月15日 | 2020年5月16日～ 2020年8月17日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | 360 6.813% | 360 5.720% |
| 当期の収益 | 74 | 31 |
| 当期の収益以外 | 285 | 328 |
| 翌期繰越分配対象額 | 2,465 | 2,137 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、原則として「オーストラリア株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行いません。

(オーストラリア株式マザーファンド)

状況が急激に変化し不透明感が払拭されない状況下で将来を予測することは困難ですが、当ファンドでは引き続き保有銘柄の収益予想の見直しを行なっています。バリュエーション（株価評価）に影響を与え得る長期的な収益性だけでなく、短期的な収益性、配当、バランスシート上のリスクに対する影響についての見直しも含まれます。現在ポートフォリオで保有している株式に関連する個別リスクを洗い出すとともに、極端に売られる場合や、場合によっては市場における無差別的な売りによってもたらされる機会損失についてもリスク分析を行なっています。株式の長期的な収益予想モデルやバリュエーションに与える影響は、このような強制的な市場の低迷時におけるダメージがいかに深刻でどれだけ長くどの程度であったかによって左右されると考えています。

今回の株価調整や政府の介入による経済情勢の変化はかつてないスピードで進んでいるため、持続可能な評価を困難にしています。しかし、見境のない売却が続いたおかげで、様々なセクターや銘柄において選別投資の機会が訪れています。株価と評価との間に生じている極端な乖離は、市場の反転時に強く収束する傾向があります。大きな調整局面において底値を拾うことは難しく、相対的に上昇した銘柄を売却しながら売られ過ぎのバリュー銘柄に徐々に入れ替えることが、このような局面では有効であると考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年 2月18日～2020年 8月17日)

| 項 目 | 第47期～第48期 | | 項 目 の 概 要 |
|------------------------|-----------|---------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 円 | % | (a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (25) | (0.421) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販 売 会 社) | (24) | (0.410) | 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 |
| (受 託 会 社) | (3) | (0.044) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料 | 7 | 0.118 | (b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (株 式) | (6) | (0.101) | |
| (投 資 信 託 証 券) | (1) | (0.017) | |
| (c) そ の 他 費 用 | 4 | 0.067 | (c) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 |
| (保 管 費 用) | (2) | (0.038) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監 査 費 用) | (0) | (0.002) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印 刷 費 用) | (2) | (0.027) | 印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用 |
| (そ の 他) | (0) | (0.000) | その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用 |
| 合 計 | 62 | 1.060 | |
| 作成期間の平均基準価額は、5,829円です。 | | | |

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

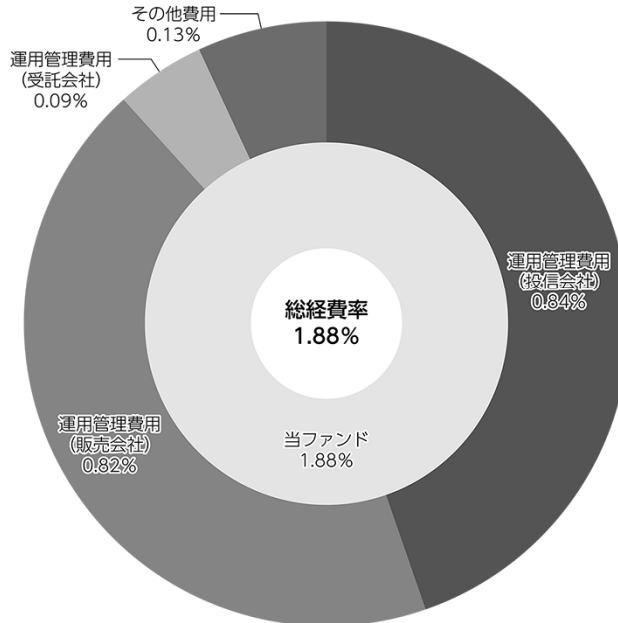
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.88%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年2月18日～2020年8月17日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

| 銘柄 | 第47期～第48期 | | | |
|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 設定 | | 解約 | |
| | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 |
| オーストラリア株式マザーファンド | 千口 323,217 | 千円 515,168 | 千口 234,816 | 千円 382,384 |

○株式売買比率

(2020年2月18日～2020年8月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

| 項目 | 第47期～第48期 | |
|----------------------|------------------|--|
| | オーストラリア株式マザーファンド | |
| (a) 当作成期中の株式売買金額 | 4,120,869千円 | |
| (b) 当作成期中の平均組入株式時価総額 | 4,535,237千円 | |
| (c) 売買高比率 (a) / (b) | 0.90 | |

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2020年2月18日～2020年8月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年2月18日～2020年8月17日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2020年2月18日～2020年8月17日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2020年8月17日現在)

親投資信託残高

| 銘 柄 | 第46期末 | 第48期末 | |
|------------------|-----------|-----------|-----------|
| | 口 数 | 口 数 | 評 価 額 |
| | 千口 | 千口 | 千円 |
| オーストラリア株式マザーファンド | 1,383,054 | 1,471,454 | 2,659,507 |

(注) 親投資信託の2020年8月17日現在の受益権総口数は、2,946,487千口です。

○投資信託財産の構成

(2020年8月17日現在)

| 項 目 | 第48期末 | |
|------------------|-----------|-------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| | 千円 | % |
| オーストラリア株式マザーファンド | 2,659,507 | 90.2 |
| コール・ローン等、その他 | 289,174 | 9.8 |
| 投資信託財産総額 | 2,948,681 | 100.0 |

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) オーストラリア株式マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産(5,584,192千円)の投資信託財産総額(5,592,789千円)に対する比率は99.8%です。

(注) 外貨建資産は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1オーストラリアドル=76.57円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

| 項 目 | 第47期末 | 第48期末 |
|-----------------------|----------------|----------------|
| | 2020年5月15日現在 | 2020年8月17日現在 |
| | 円 | 円 |
| (A) 資産 | 2,292,805,619 | 2,948,681,954 |
| コール・ローン等 | 68,055,220 | 136,041,200 |
| オーストラリア株式マザーファンド(評価額) | 2,078,016,047 | 2,659,507,588 |
| 未収入金 | 146,734,352 | 153,133,166 |
| (B) 負債 | 166,852,513 | 186,823,334 |
| 未払収益分配金 | 155,418,292 | 167,545,042 |
| 未払解約金 | 687,022 | 5,719,236 |
| 未払信託報酬 | 9,684,750 | 12,096,833 |
| 未払利息 | 61 | 108 |
| その他未払費用 | 1,062,388 | 1,462,115 |
| (C) 純資産総額(A-B) | 2,125,953,106 | 2,761,858,620 |
| 元本 | 4,317,174,795 | 4,654,028,968 |
| 次期繰越損益金 | △2,191,221,689 | △1,892,170,348 |
| (D) 受益権総口数 | 4,317,174,795口 | 4,654,028,968口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 4.924円 | 5.934円 |

(注) 当ファンドの第47期首元本額は3,811,172,932円、第47～48期中追加設定元本額は1,532,793,770円、第47～48期中一部解約元本額は689,937,734円です。

(注) 1口当たり純資産額は、第47期0.4924円、第48期0.5934円です。

(注) 2020年8月17日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は1,892,170,348円です。

○損益の状況

| 項 目 | 第47期 | | 第48期 | |
|------------------|---------------------------|----------------|---------------------------|----------------|
| | 2020年2月18日～ 2020年5月15日 | | 2020年5月16日～ 2020年8月17日 | |
| | 円 | | 円 | |
| (A) 配当等収益 | △ | 3,305 | △ | 5,699 |
| 支払利息 | △ | 3,305 | △ | 5,699 |
| (B) 有価証券売買損益 | △ | 872,832,721 | | 577,699,500 |
| 売買益 | | 38,558,987 | | 623,125,171 |
| 売買損 | △ | 911,391,708 | △ | 45,425,671 |
| (C) 信託報酬等 | △ | 9,991,922 | △ | 12,520,745 |
| (D) 当期損益金(A+B+C) | △ | 882,827,948 | | 565,173,056 |
| (E) 前期繰越損益金 | △ | 111,939,903 | △ | 928,048,039 |
| (F) 追加信託差損益金 | △ | 1,041,035,546 | △ | 1,361,750,323 |
| (配当等相当額) | (| 1,186,438,842) | (| 1,147,610,737) |
| (売買損益相当額) | (△ | 2,227,474,388) | (△ | 2,509,361,060) |
| (G) 計(D+E+F) | △ | 2,035,803,397 | △ | 1,724,625,306 |
| (H) 収益分配金 | △ | 155,418,292 | △ | 167,545,042 |
| 次期繰越損益金(G+H) | △ | 2,191,221,689 | △ | 1,892,170,348 |
| 追加信託差損益金 | △ | 1,164,298,686 | △ | 1,514,778,067 |
| (配当等相当額) | (| 1,064,551,999) | (| 994,970,117) |
| (売買損益相当額) | (△ | 2,228,850,685) | (△ | 2,509,748,184) |
| 繰越損益金 | △ | 1,026,923,003 | △ | 377,392,281 |

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 親投資信託の信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要した費用のうち、2020年2月18日～2020年8月17日の期間に当ファンドが負担した費用は5,414,267円です。

(注) 分配金の計算過程(2020年2月18日～2020年8月17日)は以下の通りです。

| 項 目 | 2020年2月18日～ 2020年5月15日 | 2020年5月16日～ 2020年8月17日 |
|------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| a. 配当等収益(経費控除後) | 32,155,152円 | 14,517,298円 |
| b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後) | 0円 | 0円 |
| c. 信託約款に定める収益調整金 | 1,187,815,139円 | 1,147,997,861円 |
| d. 信託約款に定める分配準備積立金 | 0円 | 0円 |
| e. 分配対象収益(a+b+c+d) | 1,219,970,291円 | 1,162,515,159円 |
| f. 分配対象収益(1万円当たり) | 2,825円 | 2,497円 |
| g. 分配金 | 155,418,292円 | 167,545,042円 |
| h. 分配金(1万円当たり) | 360円 | 360円 |

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○分配金のお知らせ

| | 第47期 | 第48期 |
|------------------|------|------|
| 1 万口当たり分配金 (税込み) | 360円 | 360円 |

○お知らせ

約款変更について

2020年2月18日から2020年8月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

オーストラリア株式マザーファンド

運用報告書

第12期（決算日 2020年8月17日）
（2019年8月16日～2020年8月17日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | |
|--------|--|
| 信託期間 | 2008年9月26日から原則無期限です。 |
| 運用方針 | 主として、オーストラリア企業の自国通貨建上場株式あるいは他通貨建上場株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 |
| 主要運用対象 | オーストラリア企業が発行する金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 |
| 組入制限 | 株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 |

ファンド概要

主として、オーストラリア企業の自国通貨建上場株式あるいは他通貨建上場株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

株式の銘柄選定にあたっては、市場動向や各銘柄毎の成長性、収益性、流動性などを勘案して行ないます。

株式の組入比率は、高位を維持することを基本とします。

外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | S&P/ASX (円換算 ベンチマーク) | 200指数 ベース) | 株組 入比率 | 投資信託 組入比率 | 純資 産額 |
|-----------------|--------|-------|----------------------------|---------------|-----------|--------------|----------|
| | 期騰 | 中率 | | | | | |
| | 円 | % | | % | % | % | 百万円 |
| 8期(2016年8月15日) | 15,312 | △ 6.7 | 97.89 | △12.6 | 86.4 | 12.6 | 822 |
| 9期(2017年8月15日) | 19,247 | 25.7 | 113.29 | 15.7 | 92.1 | 5.0 | 1,586 |
| 10期(2018年8月15日) | 19,995 | 3.9 | 115.75 | 2.2 | 96.9 | 2.1 | 5,957 |
| 11期(2019年8月15日) | 18,354 | △ 8.2 | 107.85 | △ 6.8 | 92.3 | 5.8 | 5,854 |
| 12期(2020年8月17日) | 18,074 | △ 1.5 | 107.04 | △ 0.8 | 88.9 | 9.0 | 5,325 |

(注) S&P/ASX 200指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス (S&PDJI) が発表している、オーストラリア証券取引所上場の時価総額上位200銘柄で構成される時価総額加重平均指数です。同指数の(円換算ベース)とは、公表指数を基に円換算したものです。なお、設定時を100として2020年8月17日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

| 年月日 | 基準価額 | | S & P / A S X (円換算 ベンチマーク) | 200指数 ベース) | 株組 入比率 | 投資信託 組入比率 | 純資 産額 |
|--------------------|--------|-------|----------------------------------|---------------|-----------|--------------|----------|
| | 騰落 | 率 | | | | | |
| (期首) 2019年8月15日 | 円 | % | | % | % | % | |
| | 18,354 | — | 107.85 | — | 92.3 | 5.8 | |
| 8月末 | 18,013 | △ 1.9 | 106.29 | △ 1.5 | 89.3 | 6.4 | |
| 9月末 | 19,331 | 5.3 | 111.69 | 3.6 | 89.7 | 6.2 | |
| 10月末 | 20,558 | 12.0 | 114.91 | 6.5 | 90.4 | 6.9 | |
| 11月末 | 20,561 | 12.0 | 116.12 | 7.7 | 89.3 | 6.9 | |
| 12月末 | 21,072 | 14.8 | 119.11 | 10.4 | 89.3 | 6.7 | |
| 2020年1月末 | 20,232 | 10.2 | 117.21 | 8.7 | 92.1 | 6.9 | |
| 2月末 | 18,588 | 1.3 | 109.29 | 1.3 | 89.9 | 5.6 | |
| 3月末 | 12,816 | △30.2 | 78.14 | △27.6 | 91.8 | 4.2 | |
| 4月末 | 14,350 | △21.8 | 85.95 | △20.3 | 90.6 | 5.4 | |
| 5月末 | 16,444 | △10.4 | 95.26 | △11.7 | 88.2 | 7.7 | |
| 6月末 | 16,697 | △ 9.0 | 98.03 | △ 9.1 | 88.9 | 6.6 | |
| 7月末 | 17,586 | △ 4.2 | 104.07 | △ 3.5 | 92.4 | 6.2 | |
| (期末) 2020年8月17日 | 円 | % | | % | % | % | |
| | 18,074 | △ 1.5 | 107.04 | △ 0.8 | 88.9 | 9.0 | |

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2019年8月16日～2020年8月17日)

基準価額の推移

期間の初め18,354円の基準価額は、期間中に18,074円となり、騰落率は△1.5%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米中貿易交渉の進展期待や、資源価格の上昇、世界的な株高などを背景にオーストラリアの株式市場が史上最高値を更新したこと（期間の初め～2020年2月）。
- ・新型コロナウイルス流行後の経済活動の再開期待やワクチン開発期待の高まりなどを背景にリスク回避姿勢が緩和され、世界の株価が回復したこと。
- ・鉄鉱石や金価格など、資源価格が上昇したこと。
- ・景気回復期待などを背景に円安／オーストラリアドル高が進んだこと。

<値下がり要因>

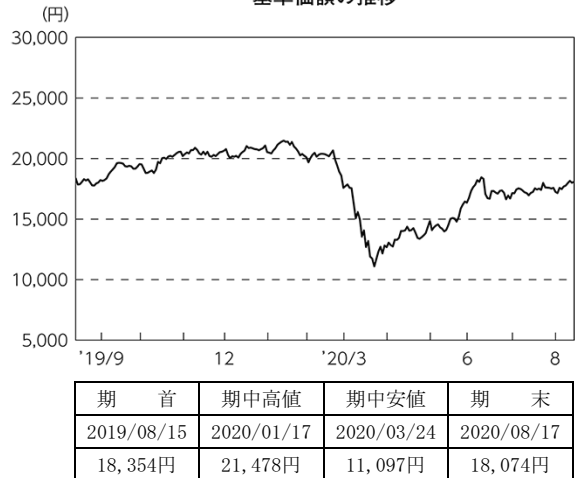
- ・世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済への悪影響が懸念されたこと。
- ・オーストラリア政府によるシャットダウン（商業・娯楽施設などの閉鎖）の発表などで経済減速や業績悪化に対する懸念が高まったこと。
- ・新型コロナウイルスの影響による需要低迷を受けて、原油価格などの資源価格が下落したこと。

(オーストラリア株式市況)

オーストラリア株式市場は、期間の初めと比べて下落しましたが、円ベースでは上昇しました。

期間の初めは、主に米中貿易協議の進展を巡る期待感がサポート材料となり、堅調に推移しました。2020年に入ってから、米中貿易協議の「第1段階合意」署名や、国内の堅調なマクロ指標を追い風に、2月上旬までは史上最高値を更新しながら上昇基調を辿りました。一転して2月下旬以降は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて世界的な景気悪化懸念が高まり、リスクセンチメントが悪化して株式市場は急落しました。世界経済の減速懸念を受けて主要中央銀行が金融緩和を進めるなか、オーストラリア準備銀行（RBA）も政策金利を引き下げたものの、政府によるシャットダウンの発表などが悪材料となり、株式市場は下値を切り下げました。4月に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化や国内外の経済活動の再開期待などを受けてリスクセンチメントが好転し、株式市場は徐々に回復基調となりました。各州で封鎖緩和が始まったことや、原油・鉄鉱石価格の上昇、新型コロナウイルスのワクチン開発期待の高まりなどをプラス材料に一時リスクオンの展開となりましたが、その後は、国内外で新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒材料となり、一進一退となりました。

基準価額の推移



為替市場では、2020年3月にかけては新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避姿勢の高進に加えて、オーストラリアの緊急利下げや量的緩和の実施に伴ない円高／オーストラリアドル安が進みましたが、その後は経済活動の再開期待や世界的な株価の戻りなどを背景にリスク回避姿勢の緩和が進んで円安／オーストラリアドル高となり、円ベース・リターンは押し上げられる結果となりました。

セクター別では、情報技術やヘルスケアが市場を牽引した一方で、エネルギー、不動産などが市場平均から出遅れました。

(為替市況)

期間中における円／オーストラリアドル相場は、右記の推移となりました。



ポートフォリオ

期間中、ポートフォリオでは主に以下の投資行動を行ないました。

他の景気循環とは異なり、農業・水産業における景気循環の特性を有する食品加工・サーモン販売/タッサル・グループ (生活必需品)、ファンド内で最良のディフェンシブ (景気動向に左右されにくい) 銘柄と位置づけている通信大手/テルストラ (コミュニケーション・サービス)、サプライヤーの好業績や一連の改良計画などがサポート材料となる鶏肉製品メーカー/インガム・グループ (生活必需品)、割安のディフェンシブ銘柄でありファンドへの組み入れの好機と判断したインフラ建設/トランスアーバン・グループ (資本財・サービス)、ディフェンシブ性があり配当利回りが高く魅力的なバリュー銘柄である包装製品メーカー/オーロラ (素材)、安定的な利益率や配当方針に定評のある住宅関連用品/GWAグループ (資本財・サービス) などについてポジションを構築しました。

一方、一般炭銘柄から投資家が離れつつあることにより株価の下落懸念が生じた石炭生産会社/ホワイトヘイブン・コール (エネルギー) を売却したほか、自社株買いのキャンセルや配当の延期を発表した航空運輸/カンタス航空 (資本財・サービス) について新型コロナウイルス危機後の株価の上昇局面を捉えて売却し、また、当ファンドにおける順位付けが下がった総合量販店/ハーベイ・ノーマン (一般消費財・サービス) などについても売却を進めました。

当ファンドのベンチマークとの差異

期間中における基準価額は1.5%の値下がりとなり、ベンチマークである「S&P/ASX 200指数（円換算ベース）」の下落率0.8%を概ね0.8%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

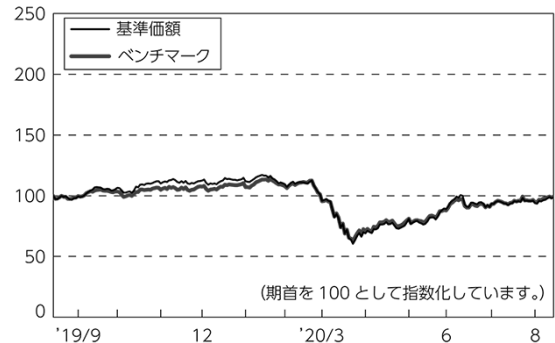
<プラス要因>

- ・非鉄金属/OZミネラルズ（素材）：銅・金価格の上昇や、主要な成長プロジェクトに関連した好材料に支えられたことが好感され、オーバーウェイトがプラスに寄与しました。
- ・スーパー・百貨店大手/コールズ・グループ（生活必需品）：好調な販売実績、テクノロジープロバイダとの契約、今後数年間の利益成長が見込まれる大幅なコスト削減目標を達成したことや、新型コロナウイルスによるパニック買いが株価上昇要因につながったことから、オーバーウェイトがプラスに寄与しました。
- ・商業銀行大手/オーストラリア・コモンウェルス銀行（金融）：新型コロナウイルスの影響で不良債権が増加するとの懸念や、低金利の長期化観測による純金利マージンの低下懸念などから株価が下落し、アンダーウェイトがプラスに寄与しました。

<マイナス要因>

- ・商業銀行/サンコープ・グループ（金融）：新型コロナウイルスにより銀行セクター全体のセンチメントが悪化するなかで主要部門である銀行部門が苦戦し、不良債権増加に対する懸念の高まりが悪材料となり、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・エンジニアリングサービス/ダウンナーEDI（資本財・サービス）：低調な建設受注や鉱山プロジェクトの着工遅延などを背景に2020年2月に業績見通しを下方修正したことや、新型コロナウイルスによる市場変動が大きく鉱業事業の売却を停止したことなどで株価が下落し、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・教育サービス/G8エデュケーション（一般消費財・サービス）：2019年後半の入所者数の伸びが鈍化して賃金コストが想定以上に膨らんだことに加えて、2020年には新型コロナウイルスの影響で保育所の入所率が低下し入所者数に再び悪影響が及んだことがマイナス材料となり、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。

基準価額とベンチマーク（指数化）の推移



○今後の運用方針

状況が急激に変化し不透明感が払拭されない状況下で将来を予測することは困難ですが、当ファンドでは引き続き保有銘柄の収益予想の見直しを行なっています。バリュエーション（株価評価）に影響を与え得る長期的な収益性だけでなく、短期的な収益性、配当、バランスシート上のリスクに対する影響についての見直しも含まれます。現在ポートフォリオで保有している株式に関連する個別リスクを洗い出すとともに、極端に売られる場合や、場合によっては市場における無差別的な売りによってもたらされる機会損失についてもリスク分析を行なっています。株式の長期的な収益予想モデルやバリュエーションに与える影響は、このような強制的な市場の低迷時におけるダメージがいかに深刻でどれだけ長くどの程度であったかによって左右されると考えています。

今回の株価調整や政府の介入による経済情勢の変化はかつてないスピードで進んでいるため、持続可能な評価を困難にしています。しかし、見境のない売却が続いたおかげで、様々なセクターや銘柄において選別投資の機会が訪れています。株価と評価との間に生じている極端な乖離は、市場の反転時に強く収束する傾向があります。大きな調整局面において底値を拾うことは難しく、相対的に上昇した銘柄を売却しながら売られ過ぎのバリュー銘柄に徐々に入れ替えることが、このような局面では有効であると考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年8月16日～2020年8月17日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|---|-------------------------|----------------------------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券) | 円 30 (26) (3) | % 0.164 (0.147) (0.018) | (a)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他) | 11 (11) (0) | 0.063 (0.063) (0.000) | (b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用 |
| 合 計 | 41 | 0.227 | |
| 期中の平均基準価額は、18,020円です。 | | | |

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

(2019年8月16日～2020年8月17日)

株式

| | | 買 付 | | 売 付 | |
|-----|---------|---------------------------|---------------------------------|------------------------|--------------------------------|
| | | 株 数 | 金 額 | 株 数 | 金 額 |
| 外 国 | オーストラリア | 百株 71,088 (△ 1,591) | 千オーストラリアドル 42,188 (△ 133) | 百株 59,043 (270) | 千オーストラリアドル 47,228 (307) |

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

投資信託証券

| 銘柄 | | 買付 | | 売付 | |
|----|------------------------|---------------------|---------------|---------|------------|
| | | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 |
| 外国 | オーストラリア | 口 | 千オーストラリアドル | 口 | 千オーストラリアドル |
| | DEXUS | 240,942 | 2,151 | — | — |
| | GPT GROUP | 457,464 | 1,837 | — | — |
| | LENLEASE GROUP | 40,198 (27,054) | 440 (265) | 117,766 | 1,953 |
| | SCENTRE GROUP | 298,183 | 556 | 710,944 | 1,660 |
| | STOCKLAND | 259,926 | 873 | 108,606 | 515 |
| 小計 | 1,296,713 (27,054) | 5,858 (265) | 937,316 | 4,128 | |

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は分割・償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2019年8月16日～2020年8月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

| 項目 | 当期 |
|---------------------|-------------|
| (a) 期中の株式売買金額 | 6,445,549千円 |
| (b) 期中の平均組入株式時価総額 | 5,128,323千円 |
| (c) 売買高比率 (a) / (b) | 1.25 |

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2019年8月16日～2020年8月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年8月16日～2020年8月17日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2020年8月17日現在)

外国株式

| 銘柄 | 期首(前期末) | | 当 期 末 | | 業 種 等 |
|---------------------------------|-------------------|----------------|---------------------|--------------------|--------------|
| | 株 数 | 株 数 | 評 価 額 | | |
| | | | 外貨建金額 千オーストラリアドル | 邦貨換算金額 千円 | |
| (オーストラリア) | 百株 | 百株 | | | |
| AUST AND NZ BANKING GROUP | 2,231 | 1,915 | 3,578 | 273,969 | 銀行 |
| ANSELL LTD | 624 | 91 | 355 | 27,233 | ヘルスケア機器・サービス |
| ARISTOCRAT LEISURE LTD | 541 | 617 | 1,745 | 133,624 | 消費者サービス |
| BHP GROUP LTD | 220 | 698 | 2,794 | 213,993 | 素材 |
| BLUESCOPE STEEL LTD | 2,695 | 1,256 | 1,516 | 116,087 | 素材 |
| BORAL LTD | 5,114 | 2,073 | 779 | 59,702 | 素材 |
| COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL | 55 | 363 | 2,604 | 199,456 | 銀行 |
| COLES GROUP LTD | 2,445 | 2,224 | 4,253 | 325,698 | 食品・生活必需品小売り |
| VIRGIN MONEY UK PLC - CDI | 9,560 | 5,851 | 1,009 | 77,294 | 銀行 |
| DOWNER EDI LTD | 3,994 | 5,211 | 2,261 | 173,191 | 商業・専門サービス |
| G. U. D. HOLDINGS LTD | 778 | 429 | 496 | 38,048 | 自動車・自動車部品 |
| G8 EDUCATION LTD | 5,387 | 10,416 | 869 | 66,596 | 消費者サービス |
| GWA GROUP LTD | — | 2,098 | 579 | 44,353 | 資本財 |
| HARVEY NORMAN HOLDINGS LTD | 1,027 | — | — | — | 小売 |
| JANUS HENDERSON GROUP-CDI | 267 | 213 | 627 | 48,029 | 各種金融 |
| ILUKA RESOURCES LTD | 2,419 | 1,562 | 1,499 | 114,821 | 素材 |
| INGHAMS GROUP LTD | — | 3,559 | 1,156 | 88,571 | 食品・飲料・タバコ |
| IOOF HOLDINGS LTD | 2,437 | 1,509 | 687 | 52,606 | 各種金融 |
| JAMES HARDIE INDUSTRIES PLC-CDI | 999 | 190 | 582 | 44,591 | 素材 |
| NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD | 1,465 | 1,777 | 3,239 | 248,028 | 銀行 |
| NUFARM LTD | 8,218 | 2,553 | 1,095 | 83,874 | 素材 |
| OIL SEARCH LTD | 2,325 | 5,153 | 1,618 | 123,912 | エネルギー |
| ORIGIN ENERGY LTD | 5,012 | 3,147 | 1,835 | 140,508 | エネルギー |
| ORORA LTD | — | 6,513 | 1,530 | 117,205 | 素材 |
| OZ MINERALS LTD | 2,236 | 1,534 | 2,111 | 161,695 | 素材 |
| QBE INSURANCE GROUP LTD | 1,771 | 1,852 | 2,033 | 155,731 | 保険 |
| AURIZON HOLDINGS LTD | 4,995 | 3,361 | 1,533 | 117,382 | 運輸 |
| RIO TINTO LTD | 332 | 85 | 860 | 65,918 | 素材 |
| SIMS LTD | 469 | — | — | — | 素材 |
| SKY CITY ENTERTAINMENT GROUP | 637 | 1,334 | 289 | 22,169 | 消費者サービス |
| SPARK INFRASTRUCTURE GROUP | 5,143 | 3,869 | 847 | 64,894 | 公益事業 |
| SUNCORP GROUP LTD | 820 | 2,888 | 2,544 | 194,823 | 保険 |
| SUPER RETAIL GROUP LTD | 458 | — | — | — | 小売 |
| TASSAL GROUP LTD | — | 2,921 | 1,075 | 82,318 | 食品・飲料・タバコ |
| TELSTRA CORPORATION LTD | — | 9,280 | 2,886 | 220,988 | 電気通信サービス |
| TRANSURBAN GROUP | — | 1,094 | 1,507 | 115,446 | 運輸 |
| VIVA ENERGY GROUP LTD | 13,182 | 13,340 | 2,414 | 184,890 | エネルギー |
| WESTPAC BANKING CORP | 2,134 | 1,746 | 3,150 | 241,236 | 銀行 |
| WESFARMERS LTD | 276 | 191 | 913 | 69,938 | 小売 |
| WHITEHAVEN COAL LTD | 2,423 | — | — | — | エネルギー |
| WOOLWORTHS GROUP LTD | 373 | 556 | 2,239 | 171,478 | 食品・生活必需品小売り |
| WOODSIDE PETROLEUM LTD | 568 | 344 | 704 | 53,954 | エネルギー |
| 合 計 | 株 数 93,650 | 株 数 103,832 | 評 価 額 61,829 | 評 価 額 4,734,271 | |
| | 銘柄 数 < 比率 > 36 | | | < 88.9% > | |

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

外国投資信託証券

| 銘柄 | 期首(前期末) | | 当 期 末 | | | |
|-----------------|--------------|---------|------------|---------|----------|--|
| | 口 数 | 口 数 | 評 価 額 | | 比 率 | |
| | | | 外貨建金額 | 邦貨換算金額 | | |
| (オーストラリア) | 口 | 口 | 千オーストラリアドル | 千円 | % | |
| DEXUS | — | 240,942 | 2,038 | 156,077 | 2.9 | |
| GPT GROUP | — | 457,464 | 1,738 | 133,106 | 2.5 | |
| LENDLEASE GROUP | 191,462 | 140,948 | 1,623 | 124,328 | 2.3 | |
| SCENTRE GROUP | 412,761 | — | — | — | — | |
| STOCKLAND | 91,417 | 242,737 | 847 | 64,866 | 1.2 | |
| 合 計 | 口 数 ・ 金 額 | 695,640 | 1,082,091 | 6,247 | 478,379 | |
| | 銘柄 数 < 比 率 > | 3 | 4 | — | < 9.0% > | |

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

○投資信託財産の構成

(2020年8月17日現在)

| 項 目 | 当 期 末 | |
|--------------|-----------------|-----------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| 株式 | 千円 4,734,271 | % 84.6 |
| 投資証券 | 478,379 | 8.6 |
| コール・ローン等、その他 | 380,139 | 6.8 |
| 投資信託財産総額 | 5,592,789 | 100.0 |

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産 (5,584,192千円) の投資信託財産総額 (5,592,789千円) に対する比率は99.8%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1オーストラリアドル=76.57円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年8月17日現在)

| 項 目 | 当 期 末 |
|-----------------|----------------|
| | 円 |
| (A) 資産 | 5,874,628,250 |
| コール・ローン等 | 91,429,054 |
| 株式(評価額) | 4,734,271,580 |
| 投資証券(評価額) | 478,379,161 |
| 未収入金 | 553,934,997 |
| 未収配当金 | 16,613,458 |
| (B) 負債 | 549,063,205 |
| 未払金 | 281,876,670 |
| 未払解約金 | 267,186,529 |
| 未払利息 | 6 |
| (C) 純資産総額(A-B) | 5,325,565,045 |
| 元本 | 2,946,487,929 |
| 次期繰越損益金 | 2,379,077,116 |
| (D) 受益権総口数 | 2,946,487,929口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 18,074円 |

(注) 当ファンドの期首元本額は3,189,905,797円、期中追加設定元本額は1,201,785,710円、期中一部解約元本額は1,445,203,578円です。

(注) 2020年8月17日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・オーストラリア株式ファンド(適格機関投資家向け) 1,475,033,028円
 ・オーストラリア株式ファンド 1,471,454,901円

(注) 1口当たり純資産額は1.8074円です。

○損益の状況 (2019年8月16日～2020年8月17日)

| 項 目 | 当 期 |
|------------------|----------------|
| | 円 |
| (A) 配当等収益 | 242,658,461 |
| 受取配当金 | 242,660,872 |
| 支払利息 | △ 2,411 |
| (B) 有価証券売買損益 | △ 234,330,299 |
| 売買益 | 1,029,879,227 |
| 売買損 | △1,264,209,526 |
| (C) 保管費用等 | △ 3,792,326 |
| (D) 当期損益金(A+B+C) | 4,535,836 |
| (E) 前期繰越損益金 | 2,664,760,793 |
| (F) 追加信託差損益金 | 880,190,388 |
| (G) 解約差損益金 | △1,170,409,901 |
| (H) 計(D+E+F+G) | 2,379,077,116 |
| 次期繰越損益金(H) | 2,379,077,116 |

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2019年8月16日から2020年8月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。